

8月1日（火）その50 祝50回記念・所長講話のレシピ

この10年間、よく文章を書いてきた。校長になって6年間「職員用通信」を毎週一回の割合で発行した。その基礎的な実践があったから、義務教育課長のときに「5分間課長講話」に挑戦できた。そして本研究所長に就任して「所長講話」を始めた。おかげさまで今日50回目に達した。「パンパカパーン、今週のハイライト!!」（笑・古すぎるかな？）

今日は「5分間所長講話」のレシピを紹介しよう。基本コンセプトは、「①学び続けること。②プラス思考。③自己開示」である。これは「義務課長講話」の頃から変わっていない。一日の仕事や生活を通して、書きたいことを決める。新聞やテレビ・ラジオで見たこと・聞いたこと、指導主事や研究員との話の中から心に残ったこと、職場や研修会、学校訪問等で「いいな!」と感じたことなどから一つだけ選んでいる。

よく作詞・作曲家の方々が、いい作品ができることを「降りてくる」という表現をする。少し意味は違うかもしれないが、私も「降りてくる」のを待つのである。「あっ、このことを書こう!」と、何かが私の心の琴線に触れるまで待つのである。

書きたいテーマが決まれば、書き上げるのは早い。小一時間もあれば、最初の荒い文章が書ける。でも自分の知識が浅かったり正確に覚えていないこともよくある。そんなとき便利なツール「インターネット」を必ず利用している。正確な年号や名前、言葉の意味などをきちんと調べる。またうろ覚えのエピソードなど、必ずネットでチェックしている。きちんと理解していないと、自分の言葉で正確に書くことはできない。いくつかのサイトを見て、知識を頭の中にかき混ぜてぎゅっと絞り出すような感じで書いている。ネットニュースやウィキペディア等もよく利用するが、文章のコピペはしない。キーワードだけを抜き出して、自分の言葉でつなげていく。

少しページをオーバーするくらいの量の文章を書き、それから何度も推こうをしながら縮めていく。この用紙一枚に必ず入れるようにしているので、35文字×48行分＝1680文字、空白行も必ず4～5行はあるので、1,500字程度だろうか。押し込めるのは少し大変である。何度も推こうして、短い言葉に置き換えたり、2つの文を一つにまとめたりすることもある。

水が上から下に流れ落ちるように「ストン」と、理路整然と聞く人に伝わるか？意味のわかりにくい文章はないか？起承転結の流れはどんなのか？意味のない話は挿入されていないか？などをチェックしている。

さらにみんなに聞かせるほどの内容かどうか？単に自分の自慢話になっていないか？等もチェックする。

幸い私は「3日半勤務の非常勤」なので、給料は少ないが時間はたっぷりである。（笑）何度も遂行して楽しんでいる。

HPを開いて見てくださっている皆様、感謝！感謝、ありがとうございます。HPの講話はPDF形式ですが、コピーできるようにしてあります。もし必要なら皆さんの「うんこファイル」にでも保存して、ご活用ください。著作権フリーで提供しています。あっ、でも「心に響く5分間うんこ講話」などと名前を変えて、モーキジユク（商売）してはいけませんよ！（笑）

（???と、笑えなかった人は、「その35、37」を読んでみよう。）

8月3日(木) その51 セミの一生、人間の寿命

クマゼミの大合唱。教育研究所の広い駐車場周辺を、みんなで毎日掃除をします。駐車場の東側にはホルトノキの並木がある。ホルトノキといえば、センダンの木と並んでクマゼミが大好きな木なのだ。シャンシャンシャンシャン……と、耳がつんざくほどうるさく鳴いている。一昨日掃き掃除をしていると、セミの死骸が10匹以上落ちていた。今日は31匹片付けた。セミの成虫の寿命は2週間ほどと覚えていたが、ネットで調べてみると、セミは地上に出て羽化して成虫になると30日程度生きるようである。穴の中で7年、地上で30日……「何が楽しくて？」といたら、セミに失礼だろうか。

シャンシャンシャンと泣くのはオスだけである。メスは鳴かない。オスにはお腹に黄色い「腹弁」と呼ばれるものがある。それは音を共鳴させて大きくしたり、音色を変えたりする器官である。

セミが鳴くのは、多くのほ乳類や鳥類のオスがやるようにメスへのディスプレイ(誇示)なのだ。「こんなにすごい声で鳴けるぞ、オレは強いぞ！」とメスにアピールしているのだ。オスは何匹かと交尾をするらしいが、メスは一度しかしないという。つまり子孫を残すために成虫になり、一度卵を産んでしまうと、さっさと死んでしまうのである。多くの動物は、繁殖力がなくなると死ぬのが普通である。しかし人間は、繁殖期間が終わってもしぶとく生きている。特に女性は「孫育」に生きがいを見いだすようである。(笑)

ところでセミはどこに卵を産むのか知っていますか？枯れ木などの樹皮の裏に産むのです。鋭い産卵管を木に刺して丁寧に産むそうです。卵はそのまま越冬して次の年の梅雨時期に幼虫となり、自分で地面に落ち、穴を掘って中に入っていくのだそうです。

名護市の三原小学校の校長をしているとき、国頭地区では11月までセミが鳴くことに気づいた。しかも9月以降のセミは泣き方がとても変わっていて、「チンチンチンジージー」あるいは「カランカランカラン、ジージー」と、まるで鐘の音のような音で鳴く。オオシマゼミといいます。ネットで鳴き声を探したので、実際に聞いてみましょう。……いかがですか、めずらしいでしょう？沖縄には9種類のセミが生息しているそうですよ。

今週の始めに内閣府が日本人の平均寿命について発表しました。それによると2020年には男80.93才、女87.19才で、2060年、男は84.19才、女が90.93才と予想しているそうです。しかし日本の人口は減り続けて、2060年には8,674万人と推計されるそうです。人口は減り続けるのに、65才以上の高齢者人口は39.9%、75才以上は26.9%に増えると予想されています。ついに「超超」高齢化社会となるわけです。年金や医療費、介護費等の社会保障費がうなぎ登りで増加することになる。少ない就労者で支えきれぬのか？

昔は「祝・長寿」だったけど、現代では長生きしても、医療費や介護の問題もあり、単純に「祝」とは言えない。未来では……「おばすて山復活」を掲げるA政党が、若者の圧倒的な支持を得て議席を伸ばす。(笑)

2060年といえば後43年、私は104才。人間ドックの数値が、冷たく笑っている……。♪♪千の風に～千の風になって♪♪恐竜を見に行ったり港川人を見に行ったりと「時間旅行」で忙しくて、そんなくだらないことを考えている暇はないの！この前見てきたけど、邪馬台国は、実はねえ……。(笑)

8月4日(金) その52 巨大氷山の誕生や北九州豪雨 - 異常気象 -

7月27日(木)のタイムスに、JAXA(宇宙航空研究開発機構)が撮影した特大氷山の誕生の記事がありました。ご覧になりましたか?(記事を配布する。)南極半島東側のラーセンC棚氷(たなごおり)から分離した巨大氷山の写真が掲載されている。興味を持ったので、ネットでも調べてみました。

棚氷というのは、氷河などによって大陸から海に押し出された分厚い氷の塊のことで、陸上の氷とつながっているのが大きな特徴です。氷山は完全に陸地とは離れて海の上を漂っていますね。南極の海岸線の75%は棚氷におおわれているそうです。

ラーセンC棚氷をずっと観察していたイギリスの研究チームやNASAは、亀裂が拡大し7月10日~12日の間に分離したと発表しています。棚氷から新たに生まれた氷山は、「重さ1兆トン、氷の厚さは200m以上。その面積は約5800平方キロメートル」で、三重県や茨城県とほぼ同じ広さのようです。沖縄県(2,191平方キロ)の2.6倍の広さの氷ということになります。

ラーセンC棚氷の亀裂が拡大していることは10年以上前から観察されていて、2014年頃から亀裂の拡大が加速していたそうです。南極の棚氷が崩壊や流出をするのは自然現象で、よくあるそうですが、ラーセンC棚氷については、はっきりした理由はわからないそうです。しかし多くの学者が、地球温暖化の影響による「海水温の上昇」を指摘しているようです。

最近では異常気象が多く、「世界の年平均気温の上昇」、「北極海における海氷の減少」、「北極圏の永久凍土の融解」などが指摘されている。海氷の上で暮らすホッキョクグマの生活基盤が揺るがされ、絶滅の危機にあるといえます。また永久凍土の融解は、中に閉じ込められていたメタンガスなどが放出され、さらに地球温暖化が加速されているようです。日本でも最近の異常高温や猛暑日、ゲリラ豪雨などの異常気象が頻繁に観測されています。

34人の犠牲者を出した「九州北部豪雨」も異常気象の一つだと考えられます。同じ場所で長期間雨雲が発生し続け、豪雨となったのです。

テレビのニュースでは、やたら流木が目につきませんでしたか?朝倉市の至る所で山崩れが発生し、植林してある杉の木などが土砂と共に一気に流れ出したのです。流木が鉄道橋を破壊したり、流木が橋にせき止められてダムをつくり、思わぬ場所から氾濫したりしていました。また流木が直接突き刺さって家屋を破壊したり、救助の妨げになったりしているところもありました。国土交通省の発表では、この豪雨で21万立方メートル、17万トンの流木があり、過去最大の流木量であるらしい。

38億年かけて緩やかに変化してきた地球の環境が、産業革命後の300年で急激に破壊されてきています。現在では世界の人口の爆発的増加とともに資源を取り過ぎて環境破壊がさらに加速化している。多くの国が自国の利益優先を第一に掲げ、特にアメリカや中国などは二酸化炭素の排出抑制に消極的であり、地球温暖化は止める術がない。ACジャパンの公共広告で、熱を出した地球君を他の惑星達が心配しているものがあって、「ストップ温暖化」と叫んでいるが、むなしく響いてくる。

人類の民族闘争の歴史を考えると、「国境のない世界地図」は、夢物語であろう。なら、50年、100年後の世界はどうなっているのだろうか?